

・実生活の中で、さらにこういう体験や事例がなければ考えてみよう。	・忍耐や努力によって、少しずつでも、自己の向上をはかることができる。	・課外学習として ○ノートにメモ ○作文 ○感想文 ○体験発表 ○良書紹介 などの方法で	考 え る
----------------------------------	------------------------------------	--	-------

六、結 び

以上極めて概括的に説明的文章の読解指導のあり方について述べ、併せて小一、中二、中三を例に指導計画案を示した。

小一と、中学校の例を示したのは、小一にあっては入門期の国語指導のあり方とその実践への手がかりという意味で示したものである。

また、中二、中三にあっては、義務教育終了（完成）期にあって、どこまで高めべきかという問題と、実践を通すところまで高め得たかを考える手がかりという意味で示したものである。

指導の実際にあつては、それぞれの単元の中で、学習活動の流れに即して、興味や関心の推移、学習意欲の高まり、学力・技能の充実、学級や個人の実態から、さらに次の方向を求めること、指導者としての教材研究のあり方や指導技術の開発というような、さまざまな問題に、常に対応しなければならないのは勿論、単元の学習ごとに、学習

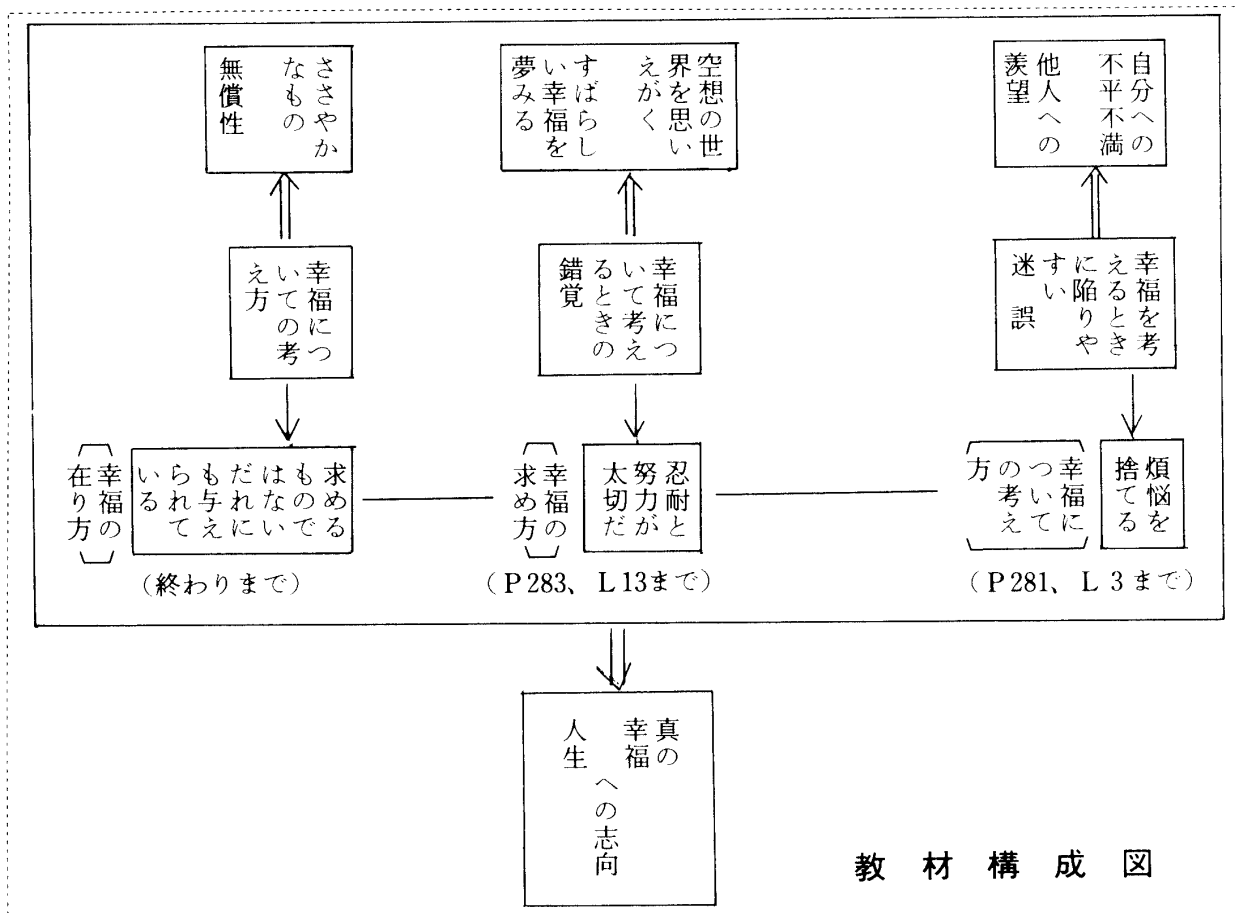
によって得た学力や技能の定着度の確認、児童生徒の知識の把握といったこともゆるがせにできない。
こうしたさまざまな問題については、稿を改めて、実践の記録・授業の分析などの例を挙げて具体的に示したいと考えているが、これについては後日を期したい。

具体的に示すことにしたい。

(六)学習の展開

学 習		方法 など	段階
教師のはたらきかけ	生徒の反応・活動		
<ul style="list-style-type: none"> ・われわれが幸福について追求するとき陥る迷誤とはどんなことか読みとろう 	<ul style="list-style-type: none"> ・サイドライン―話し合い―ノートに整理 	<ul style="list-style-type: none"> ・個人の活動とグループ活動を併用させる ・個人グループ―個人という過程を考える 	つかむ
<ul style="list-style-type: none"> ・ノートを中心に、読みとったことを確認しよう 	<ul style="list-style-type: none"> ・幸・不幸を測るとき他人を標準にする ・他人と比較して幸・不幸をきめやすい。 ・自分への不平・他人への羨望をもつ ・他人と比較したときの嫉妬とか、虚栄心から幸福を測ろうとする ・幸福を求めるとき、必ず煩惱がつきまとう ・幸福を求めるとき、不平不満にもとづく空想を描く 	<ul style="list-style-type: none"> ・発表―他グループからの意見を含めて整理する 〈板書利用〉 	みつける
<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろなことばで筆者は述べ 	<ul style="list-style-type: none"> ・他人と比較して不平不満をもつ 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループの話し合い ・個人の意見をグループ 	

<p>ているが、迷誤や不平不満はどんなときにでてくるのか考えてみよう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・他人と比較するから、自分への不幸感が生まれる。 	<p>の話し合いの中で確かめる。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・不平不満についてどんな例をあげてどのようにに説明しているか調べてみよう 	<ul style="list-style-type: none"> ・職業に対する不平不満 つらい ・魅力がなくなる ・自分を束縛する ・屈辱をこうむる ・疑問をもつ ・旅人の話（他人の荷物は軽くみえる） ・生活程度に対する不満 ・地位・名声に対する不平不満 	<ul style="list-style-type: none"> ・サイドライン（個人） ーメモ（個人）ー話し合い（グループ）ーノート整理（個人）ー発表ー疑問点の解決ーノート整理
<ul style="list-style-type: none"> ・作者はどういう心がまえが大切のだろうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・他人と比較する心を捨て去る。 ・生きるということは、夢の連続ではない。 ・生きるということは、じみで単調で、忍耐と努力を要する 	<p>個人の考えをもとにしてグループで話し合った後、指名発表。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他のグループの発言も参考にして、自分の考えをまとめる
<ul style="list-style-type: none"> ・忍耐と努力の中に幸福感がみつけられるのだろうか。自分の体験に結びつけて考えてみよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・忍耐や努力の中でこそ、自分の力を自覚できる：よろこび ・成功感・満足感は、忍耐や努力を積み重ねて、初めて味わうことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・作品製作 ・登山 ・スポーツ ・クラブ <p>などの体験を想起させる</p>
<p>わ　　か　　る</p>	<p>さ</p>	<p>ぐ　　る</p>



段階	学習内容	活動・方法など	時間
かまえをつくる	・幸福について考えてみる	・作文→プリント→討議→疑問点、相互の考え、問題点などの確認	1
文章を読み深め問題点をみつける	・全文を通読して全体の見通しをもつ ・学習の課題を定める ・幸福を考へるときに陥る迷誤について考えてみる	・全文通読→段階確認→あらすじ ・課題設定 ・読みとり→確かめ→感想の発表→疑問点の解明→問題点の確認	1
	・幸福についての錯覚について考えてみる	・グループ学習をとり入れて	1
	・真の幸福とはどういうものか、筆者の考えを読みとる	メモ→発表→整理の過程の中で、自己の考えを浮き彫りにさせる	1
問題を明らかにし、いろいろな考え方を知り自己を深める	・筆者と対話しよう	・問題点の指摘 ・自己の考えをメモ ・感想の発表 ・討議 ・確かめ	1
さらに自己の問題として深く、広く考えてみる	幸せな人生のために	・読書 ・作文・日記 ・道徳 ・学活 などへの発展	課外

今、右のような学習の計画を考えた場合の各時間の学習の流れをどうすすめてゆくかについて、第三時から第六時を例に、実践の中から

2. 筆者の意図をさぐる		・ 事実と意見を明確に区別させる。	
1. 感想をまとめさせる 2. 学習の発展をはかる	1. 読後の感想を書く 2. 資料や書物を読ませる 3. 他の教材へ技能の転移をはかる	・ プリントで紹介し、みんなの感想を読んで思考の拡大をはかる。 ・ 資料や書物を紹介し読書生活への発展をはかる。	家

○ 中学校三年 「幸福について」の場合

(一) 教材 「幸福について」(光村 三 所載)

(二) 教材の視点

・ この教材は読むことと書くことを複合させた単元である。本教科書における読むことと書くことの複合単元の系列と、そのねらいとするところを概観すると次表のようにまとめることができる。

学年	読むこと	書くこと	ね ら い
1	○ 問題をとらえて (1) 書くということ (2) アンネの日記	(3) 意見をまとめて書く	・ 感想や意見を書いた文章から問題を発見し、考えを深める。
2	○ 構成を考えて (1) 友情について (出坂誠記)	(2) 意見を書く	・ 構成を考え、筆者の意図を確実につかみながら論説文を読むとともに、文章の構成を考えて自分の意見を書き表す

3	○ 思索を求めて (1) 幸福について (亀井勝一郎)	(2) 夢を語る (生徒作)	・ 批判的に読んで、自分の思索を深め、自己をみつめることを通して、人生や社会への視野を広める
---	-----------------------------------	-------------------	--

・ 内容について読み知るだけでなく、読みつつ考える、考えつつ読むという態度と習慣をつけ、読者として自己の考えを持たせたい。

・ 本教材は「思索を深める」ことをねらいとしたものであり、特定の「幸福」についての定義を試みた文章ではない。従って筆者の幸福感について、共感・同感・疑問・批判などの読みがあってもいいはずであるし、単元名「思索を深めて」に示唆される立場からすれば、むしろ多様な読みとりの中でこれからの人生や社会、あるいは幸福についての思惟を培ってゆくことこそ、主体的な読み、創造的な読みと考えるべきであろう。

・ まとまった「幸福観」「人生観」に接する機会も少ないし、読書生活を通して、自己の幸福とか、人生態度とかいったものに目を注ぐことも欠けがちな現代の中学生に、しかも卒業を前にして「自己をみつめる」という姿勢の重要性に気づかせたい。

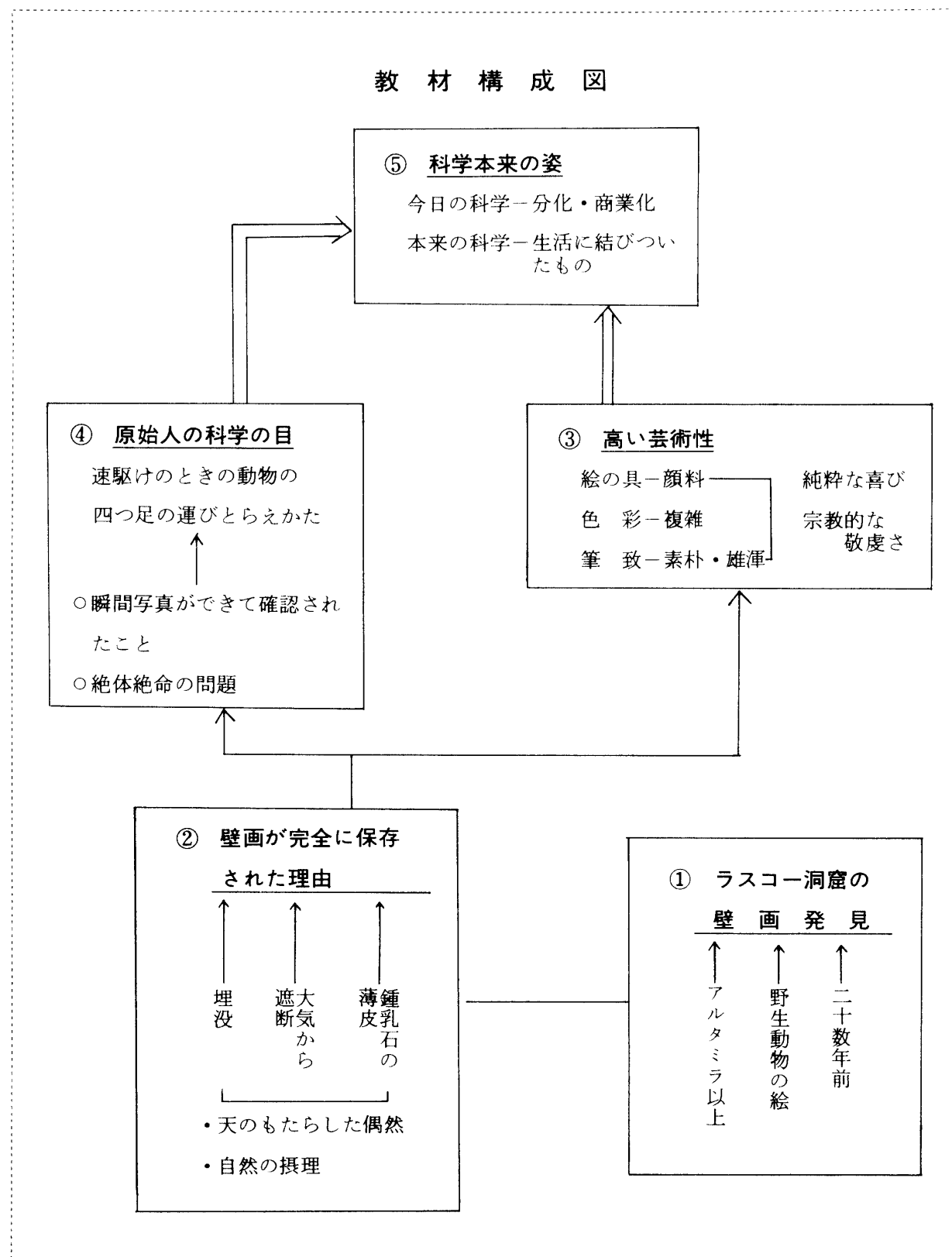
(三) 指導の目標

- (1) 幸福について考えながら、自己の思索を深めさせる。
- (2) 論理的な文章を読み深めさせる。
- (3) 人生、社会、幸福について深くみつめる態度を養う。

四 教材の構成(次ページ 上段参照)

(五) 学習計画(六時間)

教材構成図



社会科の知識や文化史的認識に支えられながら近代文学の流れを概括的に展望したり、「記録すること」の持つ意義に思考の目を向けさせ、社会人として必要な説明的文章の読解能力と、論理的思考の陶冶をねらおうとする流れである。

- ・教材内容は考古学的事項であるが、社会科で本学年当初に、歴史的事項として、原始人類の出現、四大文明の発生などについて学んでおり、素材としては時宜を得た興味を覚える文章である。
- ・表現や比較的明確・論理的で、単なる事実の紹介や主観的な感想でなく、客観的事実と科学的推論を背景とした、筆者の判断や感動が主軸になっており、生徒に対して説得力のある教材である。
- ・従って本教材では、説明的文章を正しく受容し、要旨を把握するとともに、自分なりの感想をもつことをねらいとすべきであろう。

(三)教材の構成(次ページ参照)

(四)指導の目標

- ①説明的な文章の内容を正確にとらえる能力を養う。
- ②中心的な部分と付加的な部分を判別し、要旨をとらえさせる。
- ③説明的な文章をすすんで読む態度を養う。
- ④ものの見方や考え方の深化拡大をはかる。

(五)学習の計画と展開

目 標	学 習 活 動	留 意 点 など	時 間
1. 学習のかまえてつくる	1. 原始人の生活について話し合う	・ 社会科(歴史)の復習をも兼ねて	

1. 文章の要点を正確につかませる。	2. 全文の要点をつかみ、文章を要約させる	1. 段落と段落の関係を考えながら読む。	3. 学習の見通しをたてる	2. 全文の概略をつかむ
1. 全文の要点をまとめる。	3. 各段落の要点をつかみ、要約する。	1. 段落の切れ目をしらべる。	5. 前書きとのかかわりを考えて、学習のめあてをつかむ	2. 黙読 3. 指名読み 4. 内容の概略について話し合う
・ 各段落の要点をおさえながら要旨をまとめさせる。 ・ 要旨を発表し確認する	・ 要点の確認をする ・ 文図を書く ・ 資料・「マンモスをたずねて」 ・ 各段落の切れめを確かめ、各段落の内容を大まかにつかませる	・ 段落相互の関係を考えながら、内容を正しく読みとらせる。 ・ 指示語や接続語に注意しながら段落分けをする。	・ 「マンモスをたずねて」 ・ 「世界の美術」古典編 小学館	・ 衣・食・住について整理表示してみる ・ 語句・漢字についてはあらかじめプリントを用意し、抵抗を除くように配慮する。 ・ 資料・ラスコー洞窟の壁画写真 ・ イリーン「人間の歴史」
1	3	家		1

<ul style="list-style-type: none"> ・内容をよみ深める (まとめ) 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習を発展させる (転移)
○それぞれの動物の冬のすごし方をまとめる 1 かえる へび 2 くま 3 のうさぎ 4 つばめ 5 はくちょう・かも ねむる とびまわる 日本から南へ 北の国から日本へ	○他の動物の冬のすごし方を考えてみよう。 ・昆虫(きりぎりす・あり) ・魚 ・金魚 ・犬・ねこ ○植物の冬のすごし方 ・いちよう ・八つ手 ・松・杉 ・ひまわり・チューリップ ○動物の冬のすごし方について、ほかの話を読んでみよう(「イソップ物語」など)
1	1

○中学校二年 「ラスコー洞窟の壁画」の場合

(一)教材 「ラスコー洞窟の壁画」(光村 二 所載)

(二)教材の視点

・本教科書では、この単元は、

①説明的文章を読む

②説明的文章を書く

の複合単元として構成されている。これを図示すると、次のようになる。

学年	読むことをねらったもの	1	書くことをねらったもの
3	読むことをねらったもの	(一)平頭もりの話 (二)「記録」の文化史	(二)報告や記録の文章を書こう (三)手紙を書こう ○文章の推敲
2	読むことをねらったもの	(一)ラスコー洞窟の壁画 (二)建築の構造	(三)正確に説明しよう ○相手の考えて説明しよう ○実用的な手紙
1	読むことをねらったもの	(一)平頭もりの話 (二)「記録」の文化史	(三)相手の考えて説明しよう ○実用的な手紙

・「平頭もりの話」は、捕鯨もりを尖頭から平頭にする実験の記録といった科学的な内容を素材にした説明文である。その基礎に立って、二年生では、「ラスコー洞窟の壁画」「建築の構造」の二教材を通して、論理的・科学的な思考の深化をめざすものであると考えることができる。

・前者は、原始人の生活に密着した芸術の豊かさや、科学的な視点の鋭さから、今日の科学、さらに本来あるべき姿の科学にまで言及しようとする一種の科学論序説であり、後者は、建築の構造の歴史的变化遷のあとをふりかえりつつ、日本の風土的特質から、今後の建築の進むべき方向を示唆するという展開の論述である。

・さらにこれらを読みこなすことにより、三年の教材に対決したとき、

(二)教材の視点

・かえる・へび・くま・のうさぎ・つばめ・はくちょう・かもの七種の動物をとり上げている。いずれも児童に親しみやすい動物であり、学習への興味が期待される。

・それぞれの動物の越冬のしかたを説明するものであるが、これを

(1)冬眠型 (2)活動型 (3)移動型

の三類型に分類して説明しているので、明確に順序だてて読みとりをすることが可能である。

・身近な動物の生態を、文章を読んで理解することを通して、読むことのおもしろさ、知ることの楽しさが実感できる。

・文章の内容を理解し、知識として定着させるとともに、ものを見る目を育てる契機としてゆくことが可能である。

(三)指導の目標

(1)それぞれの動物の冬のすごし方の仲間分けをして理解させる。

(2)文章の順序に従ってあらすじを話せるようにさせる。

(3)文章を正しく読む習慣を養う。

(四)学習計画(九時間)

学習の段階	学 習 の 内 容	時間
・興味・関心をひき出す (導入)	○さし絵をみて話し合う。 ・なんという動物か。 ・どこで見たか。	1

	・文章を読み 学習の課題 をみつ ける。	・内容を正し く読みと る。	(展開)	
	・色・形・特徴は―― ・さし絵は何をしているところか。 ・それぞれの動物についてどんなことを知っているか。	○難語を解決する ・もぐったり……入ったり	・ふかくねむる ・けれども ・あやしいもの音 ・ぱつと　・うなりごえ ・どうぶつ――けもの ・ここえて ・――からです ・日本にやってくるとりもいます ・きびしい	○かえるやへびはどんな冬のすごし方をするか。 ・かえる――もぐる(土の中、おちば) ――ねむる(つめたくなる) ・へび――ねむる(土の中)
	○全文通読 ○何について書いてあったか。			○くま、のうさぎの冬のすごし方 ・くま――ふとる・ねむる↓目をさます ・のうさぎ――とびまわる
				○つばめや白ちやうの冬のすごし方 ・つばめ――南へわたる(えさになる虫) ・白ちやう・かも――日本にくる(きびしいさむさ)
1	1	2	1	1

次四第	次三第
<ul style="list-style-type: none"> ・応用、発展、転移をはかり生活化態度化思考の拡大を促す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文章全体の展望の中で、要旨を把握させるとともに、筆者の感想をもつ。
<ul style="list-style-type: none"> ・他の問題について同じようなことは言えないか考えてみよう。 ・問題をみつけて思考を深め、すすんで書物を読んでみよう。 ・読んだことや、読んで感じたことを文章に表現してみよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文章の構成を手がかりに、予想したことを読み確かめたことを比較してみる。 ・全文の要旨を文章にまとめてみる。 ・自分の感想をまとめるとともに、みんなの感想を話し合う。

五、説明的文章の指導計画例

先に触れたように、基本的には学習の段落として、

- 1、学習のかまえみをつくる。
- 2、読み確かめる。
- 3、主題に迫る。
- 4、学習の発展・転移を図る。

といった四段落が考えられるであろうが、ここでは、指導等の形式そのものには拘束されないで、入門期である小学校一年と、完成期に近い中学校二年・三年の教材をとりあげて指導計画の例として示してみる。

○小学校一年 「どうぶつの ふゆの すごしかた」の場合

(一)教材 どうぶつの ふゆの すごしかた(教出 一下 所載)

どうぶつの ふゆの すごしかた

かえるは、土の中にもぐったり、おちばの下に入ったりして、ふゆをすごします。からだがつめたくなって、ふかくねむっています。もの音をたててもうごきません。

へびも、ふゆのあいだ、土の中でねむっています。

くまは、ふゆがちかづくと、木のみや、さかななどをおなかいっぱいいたべて、まるまるとふとります。ふゆがきて、たべものなくなると、大きな木のあなや、いわのあなにもぐって、ねむってしまいます。

けれども、ふかくねむってしまうわけではありません。ほかのどうぶつがちかづいたり、あやしいもの音がしたりすると、ぱっと目をさまして、うなりごえをあげます。

けものの中には、のうさぎのように、ゆきがふつても、げんきでの山をとびまわるものもいます。

つばめは、あきになって、つめたいかぜがふいてくると、みなみのあたかいたところへわたっていきます。ふゆになると、ここへてしまし、えきになる虫がいなくなるからです。

つばめとちがつて、ふゆになると、日本にやってくるとりもいます。

はくちょうやかもは、さむさのきびしいきたのくから、日本のみずうみや川へやってきて、ふゆをすごします。

(原文は文節分かち書き)

敬語の使い方

「しくしく」と「ちくちく」

外来語と日本文化

(光村5下)

(学図6下)

(光村6下)

これは、前記二社の教科書について、範疇別に六分野に分けたものであるが、これは教材の素材や対象の広さを示すものであると同時に、指導過程を考えてゆく場合に、それぞれの分野について、関連教科の指導内容をも参考にしたがら有機的な指導が考えられなければならないことを示唆するものでもあると言えよう。

四、説明的文章の指導計画

説明的文章の指導に当たって、まず考えなければならないことは、どういう順序で何を指導するのかという、教師の側のねらいを明確にすることであろう。

説明的文章の指導過程について、中学校を例として考えてみたい。指導事項における技能の系統性という目で要点を整理すると次の表のようにみることができる。

指導事項	一 年	二 年	三 年
ア主題や要旨	・とらえる。	・確実にとらえる。	・とらえ、自分の考えをもつ。
イ内容の読みとり	・要点とことがらを明確にとらえる。	・正確にとらえて要約する。	・速く正確にとらえる。

ウ論理性	エ感想や批判
・組み立てと筋道がわかる。	・ものの見方考え方をとらえる。
・組み立てに注意し、中心的部分とは付的部分を読み分ける。	・ものの見方考え方を深める。
・組み立てを的確に読みとる。	・意図が表現の上でどう生かされているかを読みとる。

これは、説明的文章読解指導のために必要な指導事項について、各学年における生徒の発達段階に則して位置づけられた読解技能の深化の段階である。

読解指導の過程は、こうした指導すべき事項について、学級や生徒個人の実態をふまえながら目標を決定し、これに到達するための手順・方法などを考えられなければならない。

ここで説明的文章の読解の一般的な手順について考えてみたい。ごく大まかに考えて、説明的文章の読解指導の過程には、次のように四つの段落があると考えられる。

段落	次一第	次二第
指導のねらい	・学習のかまえをつくり、予想をたてて、学習の見通しをもつ。	・内容を分析、精査し、段落ごとの要点をつかませるとともに、段落相互の関係を明確にし、予想したことを文章に即して検証する。
学習の内容	・全文を読みとおして、内容を概観する。 ・大意をつかむ。 ・筆者の意図を予想する。 ・学習の計画をたてる。	・図式化したり、文図を作ったりして、段落ごとの要点を正しく読みとる。 ・中心的部分と付加的部分を区別して読み分ける。 ・段落相互の関係を理解する。

三 教科書にみる説明的文章

先に触れたように、説明的文章とは文学的文章に対比されるものとして、解説文、説明文、評論文等を指すと考えられるが、それでは現行教科書ではどんな文章が教材として扱われているかを眺めてみたい。

『説明的文章の指導過程論(渋谷孝著)』によれば説明的文章の素材・対象幅の広さに触れて学校図書・光村図書二社の小学校教科書教材をとり上げて次のように分類している。

A 理科(生物)

ふしぎなくもの糸

(学図3上)

動物のへんそう

(光村4上)

花のさいた古代のはす

(学図4下)

魚の感覚

(学図5上)

声を出すしくみ

(光村5上)

ニッポニアーニッポン

(学図5上)

B 理科

鳥取砂丘

(学図4上)

星座の話

(学図4下)

人工衛星の利用

(光村5上)

けむりのゆくえ

(光村6上)

科学的態度

(光村6上)

C

科学的調査記録

一万一千メートルの深海へ
ネパールにかがやく
わたしは「かもめ」
白い大陸の長い道

(学図5下)
(光村5下)
(学図6上)
(光村6下)

D 科学的・社会的見学記録

わたしの見た広島

(学図3上)

高原生物研究所見学

(学図5上)

高速道路

(光村5下)

ゼッケン67

(光村5下)

E 社会

切手の話

(光村3上)

春の祭り

(光村3下)

本の始まり

(学図3下)

市章の研究

(学図4下)

国立公園

(光村4下)

建築の美しさ

(学図5下)

世界の国旗

(学図6上)

F 言語

記号とことば

(光村3下)

あいずとしるし

(学図3下)

方言と共通語

(光村5上)

文字の歴史

(学図5下)

<p>オ文章の中心の部分と付加的な部分とを読み分け、論理的な組立てや展開をとらえる。</p> <p>キ事実と意見、説明と描写などの表現の違いに注意して読む。</p>	<p>ア話や文章の展開に即して的確に内容をとらえ、目的や必要に応じて要約する。</p> <p>イ話し手や書き手のものの見方や考え方の特徴をとらえ、それが表現の上にとどのように生かされているか考える。</p> <p>ウ文脈の中における語句の効果的な使い方について理解する。</p> <p>エ文章の主題や要旨をとらえる。</p> <p>オ文章の論理的な組立てや展開を理解し、書き手の考えの進め方をとらえる。</p> <p>キ表現の仕方や文体の特徴に注意して読む。</p>
--	---

以上のような説明的文章の指導内容にかかわる目標から、説明的文章の指導においてめざすものは、自ら明らかにできると考えられる。

説明的文章は、書き手に思考や主張があつて、ある事実・事象やその内容を、一定の構想に基づいて段落を追って客観的に叙述し、読み手にその事実や事象に対する新しい知識を与えたり、読み手を説得し乃至は納得させようとする意図で書かれたもの、あるいはある事実事象や主張を書き手の立場から論理的に叙述して、読み手に書き手の思想内容に対する認識や判断を与えようとするものである。

そう考えると、説明的文章の指導でねらいとすることは、

1、説明的文章を読みとることによって、知識を深め、経験を豊かにするとともに、思考力や判断力を高める。

2、説明的文章の読解を通して読解のための思考力を養い、言語に対する技能や感覚を高め、社会に適応してゆく態度を培う。

という二面が考えられよう。そのための具体的な指導項目として当面

考えられることは、

1、文章の内容の中心的なことを読みとる。

2、中心的部分と付加的部分を読み分ける。

3、中心的部分と付加的部分の関係をとりあえる。

4、文章の構成と論理の展開をとらえる。

5、事実と意見・感想を読み分ける。

6、事実と意見、感想の関係をとりあえる。

7、文章の内容と書き手の意図を読みとる。

8、事実と意見や感想を正確に読みとり、それに対する読者としての

の考えを持つ。

といったことになろう。

これらのことをねらいとして、学習者の実態を考慮しながら指導の計画が組まれなければならない。

児童生徒の実態として考慮しなければならないことがらは、説明的文章の読解に限られたことでなく、すべてのジャンルの教材の指導に於て配慮しなければならないところではあるが、実際に即して言えば、次のようなことを考慮する必要がある。

1、児童生徒の教材への興味や関心

2、児童生徒の知識や生活体験

3、言語能力・読解能力

4、既習の知識や体験

5、地域の学習環境

6、他教科との関連

7、教材の内容と指導上の系統的位置

表のようになろう。

説明的文章	文学的文章
1. 説明・論述されている事実現象を知的に理解しようという論理的思考を中核とする。 2. 批判を加えて、冷静に客観的に読みとる。 3. 知識・意志に訴えて、理性的に読みとる。 4. 読解活動を通して、自然・社会・文化などに対する認識や、正しいものの見方考え方を身に付ける。	1. 表現されている内容・過程を感性的に受容しようという想像的思考を中核とする。 2. 想像を加えて、主体的主観的に読み深める。 3. 感覚・感情に訴えて、情緒的に読みとる。 4. 読解活動を通して、自然や人生に対して、深く豊かな情緒・感性を身に付ける。

以上をまとめて、説明的文章の読解活動におけるねらいを文学的文章と対比して約言するならば、

文学的文章は、主題・内容の感性的構造が中核となっていて、読者の情緒的・感性的な思考を主とするものであるのに対して、説明的な文章は、内容表現の論理的構造が中核となっていて、読者の知的・理性的な認識や判断が培われ、それら読解の活動を通して、単に文章の受動的理解にとどまらず、最終的なねらいとしては、

①読解活動の中で学んだ知識内容を日常生活に移し植えて実践化し、社会生活に反映させること（生活化）。

②読解活動の中で得た知識、認識や対象把握の方法を生かして、新しい疑問に対決し、自らすすんで調査、研究へ発展させる態度を培うこと（態度化）。

③読解活動の中で得た認識や態度を基調として、さらに深く自己を凝視し、思考を豊かにすること（思考の拡大）。

などが、究極のねらいであり、そのことは指導要領の目標としてかかげられている。

「生活に必要な国語の能力を高め、国語を尊重する態度を育てる。」ということにつながるものであると言えよう。

説明的文章を教材として、その読解指導を考える場合、そのねらいをどこに置くべきかは、学習指導要領におけるそれぞれの学年の理解領域Bに示す目標の中から、説明的文章の読解にかかわり深いものを整理することによって明らかになる。今これを中学校を例として、摘記してみると次のようになる。

これは、中学校では、小学校で培われた読解についての基礎的技能を基盤として、

学年	中一	中二
説明的文章読解における指導内容	ア話や文章の要点と事柄をとらえ、必要に応じて要約する。 イ話や文章に表れているものの見方や考え方をとらえる。 ウ語句の意味を文脈の中で正しくとらえる。 エ表現に即して主題や要旨をとらえる。 オ文章全体の組立てや筋道をとらえる。 キ場面、経過、論理の展開などに注意して読む。	ア話や文章の展開に即して内容をとらえ、必要に応じて要約する。 イ話や文章の内容に含まれているとも見方や考え方について考え、自分の見方や考え方を広げる。 ウ文脈の中における語句の意味や語感をとらえ、その用い方を知る。 エ文章の展開を考えながら読んで、主題や要旨をとらえる。

で知るべし。」

(5) 講ずる。「義士伝をよむ。」

(6) 了解する。さとり。「腹の中をよむ。」

(7) 囲碁・将棋などで先の手を考える。

—『広辞苑』より抄記—

ここで明らかなように、「読む」ということには、物を数える意味や詩歌を作る意味のほかに、理解したり了解したりするという意味があるのである。

別の表現をするならば、「読む」ということは、筆者なり作者なりによる主体的言語活動の所産である作品または文章という客体的存在を、言語主体が表現行為の主体から理解行為の主体に転換され、読者・理解者・受容者という立場で、主体的にはたらかけることである。

従って「読む」とは、文章を構成している文字記号群を目によってとらえ、その記号群がになっている意味内容を読者の心的活動によって正確に把握するという、いわば内容的意味の理解という客体的な側面と、表現を通してその表現のもつニュアンスや独特の文章の性格を理解するとともに、作者または筆者の思考や表現の過程に沿って読者の立場で思考し、表現に支えられている表現主体の思想、表現者の意味世界を追体験し、文章の表現的意味を把握するという主体的な側面とがあると考えられる。

いずれにしても、文章を読んで理解するということは、児童・生徒が文章と対決し、その内容的意味を理解するとともに、表現的意味を理解し、自己のものの見方考え方を深化拡大または変容させることであると考えられることができる。

ところで、読解指導について配慮しなければならないことがらは、指導のねらいや教材の性格、生徒の発達段階等によって、さまざまに考えられるであろうが、本稿では、主として説明的文章の読解指導ということに限定して考えてみたい。

文章はどんな視点や角度から見ると、いろいろの分類の方法が考えられるであろうが、一応文学的な文章に対比するものとして、説明・解説・記録・報道・論説・評論といった範囲の文章（以下説明的文章）が考えられる。これら説明的文章の性格は、

① 理解者の側でもっていると考えられる知識や概念と結びつけ定義・比較・対照・分析・分類・例示などの方法によって、表現者の持っている知識や情報を提供し、その事実、現象の意味・価値・理由・原因・根拠・動機などを明らかにする。

または、

② 表現者が理解者の思考や認識をゆさぶって自己の文脈で思考させ、自己と同じ立場に立たせようとするもの。

であるといえよう。

そのために、説明的文章は、読み手を説得、共鳴させようとする意図から

③ 書き手の思考や判断から、最終的結論に達するに至るまでに引用の例や事実を選び、その配列や構成をくふうし、用語や表現に注意しながら、構造的・論理的に表現されている。

のが一般であるといえよう。

従って、説明的文章の読解活動のねらいの特徴というべきものは、文学的文章のそれとは著しく異なることになる。いま、説明的文章のねらいというべきことを、文学的文章のねらいと対比してみると、次

となっており、具体から抽象へ、現実から思考へ、主観から客観へと
いう内容面での深化、拡大への意図をみることが出来る。これら小学
校で培われた基礎の上に、中学校では

学年	説明的文章理解に関わる内容
1	<ul style="list-style-type: none"> ・物の見方、考え方をとらえる。 ・語句の意味を文脈の中でとらえる。 ・文章全体の組み立てや筋道をとらえる。 ・場面、経過、論理の展開に注意して読む。
2	<ul style="list-style-type: none"> ・文脈の中の語句の意味をとらえる。 ・展開を考えながら読み、主題や要旨をとらえる。 ・中心部分と付加的部分、論理的な組み立てや展開をとらえる。 ・事実と意見、説明と描写を読み分ける。
3	<ul style="list-style-type: none"> ・文脈の中の語句の意味を理解する。 ・論理的な組み立てや展開を理解する。 ・表現の仕方や文体の特徴に注意して読む。

と発展的、総合的に内容を考え、基礎的な説明的文章読みとりの力を
生活の全分野に転移する方向を示唆していると考えられる。

これらのことは、さらに高等学校における指導要領にも引き継がれ、
その学習指導要領の理解領域の概容をみると、

領域	説明的文章理解に関わる内容
国語ⅠⅡ	<ul style="list-style-type: none"> ・主題や要旨を叙述に即して的確にとらえる。 ・構成や展開に注意して強調点をとらえ、要約・詳述する。 ・ものの見方、感じ方、考え方を広くする。
国語表現	<ul style="list-style-type: none"> ・主題・要旨・構成・修辭などを吟味する。

現代文	古典
<ul style="list-style-type: none"> ・論理的な文章の主要な論点・従属的な論点を考え、論理の展開や要旨を的確にとらえる。 ・文体、修辭などと内容との関係を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文章の構成や展開に即して主題や要旨を的確にとらえる。 ・作品に現れた思想や感情を理解し、ものの見方、感じ方、考え方などを深める。 ・文章の表現上の特色を理解する。

ここでは、説明的な文章の主題、要旨、構成、展開といった読みとりの基礎を確立すると共に、それを基底として、ものの見方、感じ方、考え方といった思考や論理そのものを深めたり広げたりすることに
よって、一般社会人としての思想、判断力の形成をねらいとする方向
となっていると考えられる。

二、説明的文章でねらうもの

まず「読む」ということを辞書的に眺めてみる。

「読む」(1)数をかぞえる。万一七「春花のうつろふまでにあひ見
ねば月日よみつ妹待つらむぞ」

(2)声たてて唱える。源手習「大徳たち経よめなど宣ふ」

(3)詩歌を作る。土佐「浪の立つたことと憂ひいひてよめる歌」

(4)文字・文書を見て、意味をといて行く。蘭東事始「志学垂統と私かに題せる冊子に録せり。後の人これをよん

目標を眺めなおしてみたい。

指導要領の構成は、その「目標」についてみると、前半が表現、後半が理解に関するものであるが、今理解領域についての目標から、説明的文章指導を中心にしてまとめてみると、まず小学校では

学年	説明的文章理解に関わる目標
1	<ul style="list-style-type: none"> 書かれている事柄の大体を理解する。 粗筋をつかむ。
2	<ul style="list-style-type: none"> 事柄の順序や場面の様子の移り変りを中心に内容を理解する。
3	<ul style="list-style-type: none"> 要点を正しく理解する。
4	<ul style="list-style-type: none"> 要点相互の関係、中心点を把握する。
5	<ul style="list-style-type: none"> 主題や要旨を理解する。
6	<ul style="list-style-type: none"> 目的・文章の種類形態に応じた読み方をする。

となって居り、この小学校での基礎的理解力を基盤として、中学校では、

学年	説明的文章理解に関わる目標
1	<ul style="list-style-type: none"> 内容を正確に理解する。
2	<ul style="list-style-type: none"> 内容理解の能力を高める。
3	<ul style="list-style-type: none"> 内容を的確に理解する能力を高める。

と示され、中学校においては、一般的な説明的文章理解に関する基礎的理解力を発展させることと、他の文章やジャンルに対しての応用的適応力を養うことをねらいとしている。

さらにこのことは、高等学校になると、より高度な理解力と、言語意識を高め言語感覚を養うこと、さらには思考力そのものへの配慮が

みられ、具体的には、

教材領域	説明的文章理解に関わる目標
国語II	<ul style="list-style-type: none"> 的確に理解し、言語感覚を豊かにする。
現代文	<ul style="list-style-type: none"> 読解の能力を高め、見方、感じ方、考え方を深める。
古典	<ul style="list-style-type: none"> 読解の能力を高め、見方、感じ方、考え方を深める。

といった具合に理解目標そのものの発展的な位置づけがなされている。また、指導の内容に関しては、同様に指導要領の理解領域に限って眺めてみると、まず小学校では、

学年	説明的文章理解に関わる内容
1	<ul style="list-style-type: none"> 文章の大体を理解する。
2	<ul style="list-style-type: none"> 順序・場面を考えながら読む。 叙述に即して正しく読みとる。
3	<ul style="list-style-type: none"> 要点を理解する。 大事だと思ふところを落さないで理解する。 叙述に即して内容を読みとる習慣をつける。
4	<ul style="list-style-type: none"> 文章、話の中心的な事柄に対するまとまった感想をもつ。 大事な事柄、必要なところを細部に注意して読む。 叙述に即して内容を正確に読みとる。
5	<ul style="list-style-type: none"> 主題、要点を確実に理解し、感想・意見をまとめる。 書き手の物の見方、考え方について考える。 細部に注意しながら読みとる。
6	<ul style="list-style-type: none"> 書き手の物の見方、考え方について自分の考えをもつ。 語句の意味を文脈の中での確に理解する。 客観的な部分と感想、意見を判別して理解する。

小中学校国語教材の研究 二

——説明的文章とその読解指導について——

小 瀬 渺 美

A Study of Japanese Language Education in

Primary and Secondary School :

Explanatory Writing and Methods of Appreciation

Hiromi Kose

一、説明的文章と学習指導要領

『国語教育辞典』によれば、説明文について次のように述べている。

「文章をどのような角度から分類するかによって、そこにいくつかの分類法が生じてくる。たとえば、文章がなりたつところの言語の場を日常生活の世界と芸術の世界との二つに大別する立場をとれば、実用文と芸術文（文学文）の二大別となる。この分け方は、内外の学者が指摘しているところである。かりにこの分け方をとるとすれば、説明的な文章も実用文の中にくくられることになる。実用文にはその性格上、簡潔・周到・映像性・読みのスピードなどの法則が支配する」

ここにみられるのは、説明的文章の分類のしかたとその性格である。ここでは、説明的文章は実用文の中に位置づけられ、従って、詩・短歌・俳句・小説・随想・日記などを含む、いわゆる文学的文章に対比される実用文の中で、論文・解説・評論・説明などを含む一連の文章

と解していいであろう。

ところで今回の新指導要領では、指導内容が「表現」「理解」および「言語事項」の二領域一事項に整理され、其の具体的な内容は示していない。しかし「目標」の中に、そのめざす内容が挙げられている。

今その重点を、主として説明的文章にかかわる部分を学年別に抄出・整理すると、

学年	目 標 (1) (表現)	目 標 (2) (理解)
1	簡単な文章	事柄の大体・粗筋
2	事柄の順序	順序・場面の様子
3	要点、簡単な構成	要点
4	中心点・段落ごとの構成・段落相互の関係	段落ごとの内容の要点相互の関係 中心点・要点
5	主題・要点 全体の構成・筋道	主題・要点
6	目的・内容にふさわしい文章 的確・効果的	目的・種類・形態に応じた適切な よみ方

ということになるのであり、これによって、小学校学習指導要領のめざす方向を知ることができる。

また中学校の指導要領では、

中一―文脈、組み立てや筋道、論理の展開

中二―論理的展開や組み立て、中心的部分と付加的部分

中三―主題、要旨、文章の特徴、文脈

が重点として挙げられている。

右のような説明的文章にかかわる指導要領の重点をふまえて、小学校から、中学校・高等学校にわたる系統性という面から、指導要領の